

ネットワークアンケート ⑮

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

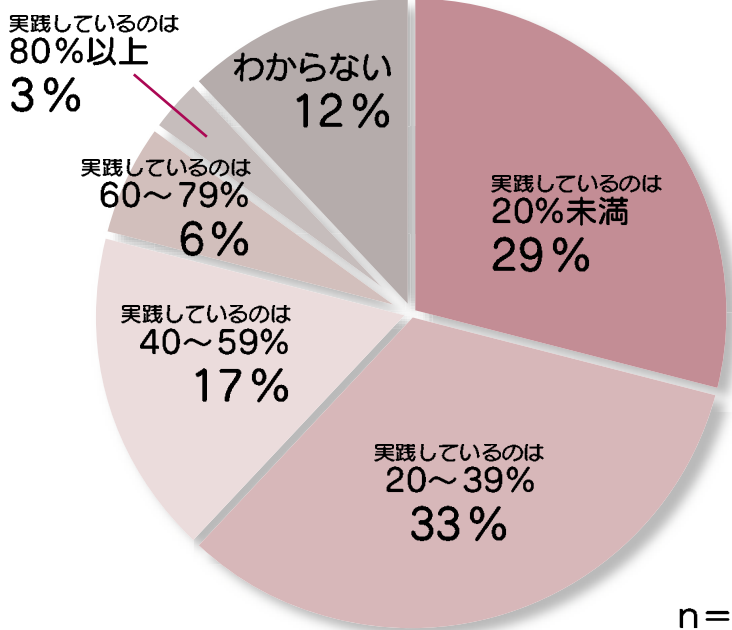
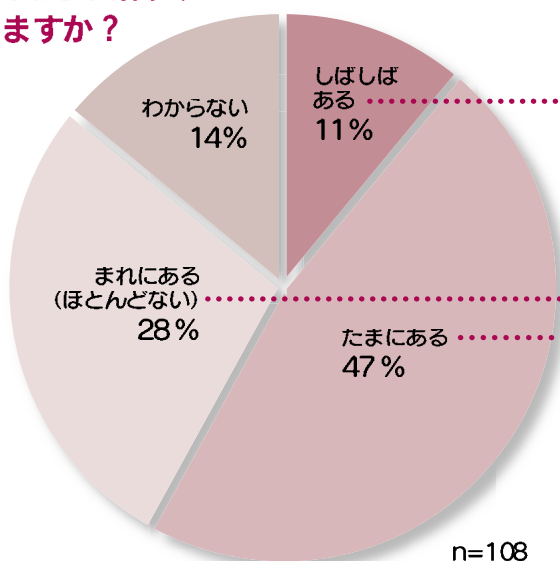
Q. 糖尿病患者さんへの運動指導後、どれぐらいの患者さんが、運動療法を実践していると感じていますか？

糖尿病の療養生活で、食事療法と並んで大切なのが運動療法です。安全で有意義に運動療法が行われるよう指導を行いたいところですが、診療現場では、本格的な運動指導を実施するのは難しいもの。今回、その現状についてうかがってみました。

[回答数：医療スタッフ108（医師28、看護師29、准看護師1、管理栄養士24、栄養士1、薬剤師13、臨床検査技師4、理学療法士8。うち日本糖尿病療養指導士37、健康運動指導士6）患者さんやその家族308（食事療法を行っている244、運動療法を行っている207、経口薬を服用している144、インスリン療法を行っている141 / 重複回答）]

20%未満と答えた方は約3割、40%以下と考えている方は全体の6割で、実践率の実感はかなり低くとらえている結果となりました。指導をしても3人に1人くらいしか実践してくれていないのでは？というのが約半数の実感。実際、運動療法の指導が、どのような形で実施されているかを聞いてみたところ、「受診時に話題が出た時のみ」が約4割で、どちらか

Q. 運動療法を継続中に、運動の中止、または運動強度・時間の変更を指示することはありますか？



というと患者さんの意志に委ねている形が多いのが現状のようです。

次に下表では、運動療法を継続中に中止や内容の変更を指示する機会の頻度、また、その際、どのような項目を参考にしているかを聞いてみました。すると、「腎疾患」や「神経障害」、「眼底所見」などの回答率が意外に低く、場合によっては

重要項目を見逃してしまう危険性があることを示唆しているようにも見受けられます。合併症を予防するために患者さんは必死になって運動していても、逆に合併症を進行させてしまう場合があることを考えると、医療スタッフによる継続的なチェックが非常に重要であると言えるかもしれません。

Q. その際、参考にする項目はどれですか？

(複数回答可) (n=108)

HbA1c	37%
SMBGの記録	26%
低血糖の出現やその程度	53%
BMIの変化	13%
腹囲の変化	8%
血圧の変化	37%
神経障害の有無やその程度	33%
眼底所見、または眼科医による見解	62%
腎疾患の有無やその程度	53%
心疾患の有無やその程度	59%
肺疾患の有無やその程度	24%
腰や膝の関節症の有無やその程度	62%
患者さんの栄養状態	13%
患者さんからの「疲れる」「きつい」などの訴え	44%
年齢	17%